

平成30年4月1日、水資源機構は金尾理事長を迎えました。

新理事長並びに甲村前理事長から就退任に当たりまして挨拶がありましたので、ここにご紹介いたします。

新理事長就任



就任挨拶

金尾 健司かなお けんじ

このたび、理事長に就任いたしました金尾です。これから四年間、皆様と一緒に仕事をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

言うまでもありませんが、水資源機構の経営理念は、「安全で良質な水を安定して安くお届けする。」ことでもあります。国民生活や産業経済活動に不可欠な水を供給し、洪水による氾濫被害から地域を守るという公共・公益的使命を効果的・効率的に、そして、透明性を確保しながら果たしていかなくてはなりません。特に最近、気候変動の影響により洪水や濁水が激化する傾向にあります。巨大地震などの大規模災害の発生も懸念されております。また、機構の管理する施設の過半が完成後三十年以上を経過しており、老朽化対策も大きな課題となっております。

このような課題に的確に対応していくには、ダム再生ビジョンをはじめとする新しい施策を取り入れながら、施設の的確な管理運用、計画的な整備を行うとともに、施設の耐震化や危機管理能力の向上、そして、長寿命化対策やライフサイクルコストの縮減に努めていかなければなりません。

また、国を挙げて、今、インフラシステムの輸出に取り組んでいるところでありまして、機構の保有する優れた技術を活用して、これに貢献していくことも大切な使命であります。

さて、この四月から新たに第四期中期計画がスタートいたします。これまでに機構は、甲村前理事長のリーダーシップのもと、中期計画を達成して参りました。

私は、この功績をしつかりと引き継ぐとともに三十年に及ぶ国土交通省での河川行政の経験を生かしながら、第四期中期計画の達成に向けて努力する所存でございます。皆さんも一人一人が水のプロ

退任挨拶

甲村 謙友
こうむら けんゆう

平成二十三年十月から六年半、人生の約十分の一あるいは一箇所の勤務としては一番長い期間、水資源機構に勤務させていただきました。

平成二十三年、二十四年の頃は、独法改革、ダム事業検証、武蔵水路での油流出事故など、非常に厳しい時代でありました。

平成二十五年台風十八号の淀川水系のダム操作で、日吉ダムは「ただし書き操作水位を超えているけれどもそのまま頑張る」とし



て、木津川水系においては、「日吉ダムがあれだけ頑張るのであれば、木津川にはそれほど雨が降っていないからもっとカットしよう」ということで、京都が大被害になるところを防止していただきました。また、台風二十六号では、印旛沼流域に大雨が降って、ポンプを最大限回しても、堤防から水が溢れそうになりましたが、機構職員自ら土嚢積みをしていただいたり我々の管理区間からの溢水を防止していただきました。

これからも、現在の状況を維持していくためには、さらなる改善が必要です。「今まで上手くいっているのだからこのままいい」かと思うと、当然「夜の来ない朝もない」わけでありませう。

さらには、平成二十七年の関東東北豪雨では、小山市への自治体支援や、土地改良区の壊れたポンプまで水資源機構の職員に直していただきました。

個人あるいは組織というものは、自分たちのことはよく把握しているけれど、自分たち以外の人が考えていることや自然現象など、不完全な情報に基づいてしか判断ができないということでもあります。そういう中で、ある意味少しは気を強くして、「駄目だ」と思った時は半々、「大丈夫」と思った時も半々、常にある意味、自分が弱い訳でもなし強い訳でもない。相手も同じくらいだとして、自然が相手だとしても「時が経ればなんとかなる」と強い心を持って危機に対応していただきたいと思います。

また、平成二十八年の熊本地震への支援、あるいは利根川・荒川渇水での対応、さらには、昨年の九州北部豪雨における寺内ダム、江川ダムでの操作とともに、その後の自治体支援、利根川・荒川渇水での対応、非出水期になってからの台風二十一号の際の関西での対応など、大変ご苦労されて立派な成果を上げていただきました。

新理事長の下で、水資源機構の職員皆さんが常に進化して、抜群の成績を修められるとともに、危機的状況が来ても、常に乗り越えて行かれることを期待しますとともに、皆さんの健康、ご家族の健康を祈念して、私の退任の挨拶といたしたいと思います。ありがとうございます。

前理事長退任

集団であるという自負を持って、それぞれの持ち場において、職責を果たし、利水者ひいては国民の期待に応えていただきたいと思います。

皆様方とこれから仕事を進めるに当たりまして、コンプライアンスの保持はもちろんではございますが、利水者をはじめとする関係者との信頼関係の構築、コミュニケーションのある風通しの良い職場作り、そして、一人一人がやりがいを持って健康に働ける職場作り、こういうことを大切にしていきたいと思っております。是非、皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

新理事長 略歴

かな お けん じ
金尾 健司

昭和33年5月12日生

- 昭和 58. 3 東京大学大学院工学系研究科（土木）修了
- 昭和 58. 4 建設省採用
- 平成 4. 4 建設省中国地方建設局河川部河川計画課長
- 5. 9 建設省河川局治水課課長補佐
- 7. 4 建設省河川局河川計画課課長補佐
- 9. 4 建設省九州地方建設局川辺川工事事務所長
- 13. 1 国土交通省九州地方整備局川辺川工事事務所長
- 13. 4 国土交通省河川局防災課企画専門官
- 13. 8 国土交通省河川局河川環境課企画専門官
- 15. 4 国土交通省河川局河川環境課河川環境保全調整官
- 16. 4 国土交通省河川局治水課河川整備調整官
- 18. 7 国土交通省河川局河川計画課河川事業調整官
- 20. 7 国土交通省関東地方整備局河川部長
- 21. 7 国土交通省関東地方整備局企画部長
- 24. 9 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長
- 25. 8 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課長
- 26. 7 国土交通省九州地方整備局長
- 27. 7 国土交通省水管理・国土保全局長
- 28. 6 辞職
- 28.11 (公財) リバーフロント研究所代表理事



新旧理事長の引き継ぎ

